

## 淀川水系流域委員会 第 28 回猪名川部会 結果概要

開催日時：2005 年 9 月 11 日（日）14：00～17：05

場 所：OMMビル 2階 会議室

参加者数：委員 14 名、河川管理者（指定席）10 名 一般傍聴者 53 名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、  
後日公開される議事録をご参照下さい。

### 1. 決定事項

### 2. 審議の概要

余野川ダムの調査検討（とりまとめ）について

- ①対象とする洪水
- ②堤防補強
- ③環境

### 3. 一般傍聴者からの意見聴取

### 1. 決定事項

- ・特になし

### 2. 審議の概要

#### ○余野川ダムに関する調査検討結果について

審議資料 1-3「余野川ダムの調査検討（とりまとめ）」について、委員と河川管理者の意見交換がなされた。主な意見交換は以下の通り。

#### ①対象とする洪水について

- ・第 1 位の洪水を検討対象から外しておきながら、開削による下流域への影響の検討において超過洪水を対象にしているのは何故か（審議資料 1-3 P7）。

←狭窄部上流は既往第 2 位を検討対象にしているが、下流域はあらゆる洪水を対象にしている。あらゆる洪水に対応するという考え方で 0.1 ずつ引き伸ばした洪水で検討を行った（河川管理者）。

- ・狭窄部上流域の目標として、「既往第 2 位の洪水を対象にした浸水被害の軽減」としたのは何故か（審議資料 1-3 P3）。第 1 位の洪水は特異であるために検討対象から外しているが、どの程度特異なのか。定量的な基準が書かれていない。

←当初は既往最大洪水を対象としていたが、有効な対策を組み合わせても大幅な被害軽減は難しい。また、1 山目が猪名川上流域、2 山目が一庫大路次川流域に降った特異な降雨でもある。委員会から目標としては過大すぎるという意見も頂いた。このため、目標洪水を見直し、昭和 58 年と総合治水対策目標治水を対象とした。（河川管理者）。

←過去の観測データから評価した結果、既往最大洪水は1/4000となった。ただ、1/4000は確定的な数字ではなく、今後の観測データの蓄積によって変わっていく数字である（河川管理者）。

- ・1/4000とされている既往最大洪水が、本当に特異な雨なのかどうか、疑問だ。寝屋川では60mmの雨が2時間降っており、この降雨を目標にしている。他の水系と比較すれば、既往最大を検討対象から外しているのは、ダブルスタンダードだと言える。防災の関係者が集まった委員会としてこれでよいのか、疑問だ。

- ・河川整備計画は今後20～30年の河川整備を対象にしているが、まずは水系全体で目標とする洪水を定めて、それに対する戦略を議論する必要があるのではないか。既往最大洪水を目標にし、第1番目のステップとして既往第2位の洪水について考えるということならわかるが、既往最大降雨を検討対象から外すことは問題だ。

←これまでの整備計画では、対象降雨を定めて、それ以下の降雨で水害を発生させないようにしてきた。しかし、目標を高くしても実現できなければ意味がない。壊滅的な被害を避けるために、まずは20～30年でできることをする。20～30年の整備ができれば、既往最大洪水に対応していく。現在やろうとしていることは第2位を対象にした整備だが、長期的な目標は既往最大だ（委員）。

←従来の工事実施基本計画では銀橋地点で既往最大洪水程度の流量が目標となっている。現在策定を進めている河川整備基本方針においても、この目標を踏襲する考えだ。既往最大洪水を将来的な対象として考えているが、今後20～30年では既往第2位を目標にして安全度を図っていく（河川管理者）。

- ・既往最大洪水を対象にした場合に余野川ダムでどれくらい効果があるのか、検討する必要がある。結果は同じであっても検討しておくべきだ。

←銀橋上流に対する余野川ダムの効果は、既往第1位であっても既往第2位であっても、一庫ダムの利水容量を余野川ダムに振り替える容量に依存しているため、ほとんど変わらない。開削後の下流域に対する余野川ダムの効果は、既往最大洪水であれば、余野川ダムがあってもなくても、堤防天端—余裕高を下回る（河川管理者）。

- ・代表的な11洪水の様々な規模において余野川ダムの水位低下効果を検討した結果（審議資料1-3 P16）、余野川ダムの効果は小さいので「当面実施せず」という結論になったと考えてよいのか。

←今後20～30年の狭窄部上流部の浸水被害軽減対策としては、余野川ダムは当面実施しないということ。20～30年後に次の目標を設定する段階であらためて狭窄部の扱い、余野川ダム、一庫ダムのかさ上げ等について再検討する（河川管理者）。

- ・既往最大洪水は上流部に対しては特異な雨だったが、下流域にとっては普通の降雨だった。特異な降雨の扱いは常に問題になるが、当面、手戻りのない方法で工事を進めていくという考え方は間違っていない。現在の進め方でよい。

- ・審議資料1-3 P16で検討されている代表的な11洪水の検討結果を示して頂きたい。

←必要であればお示ししたい（河川管理者）

- ・あらゆる洪水に対して壊滅的な被害を出さないことが、流域全体の最終的な目標だ。今回の河川整備計画の中で猪名川流域において優先して取り組むべきことは、銀橋上流の浸水被害軽減であり、その対象は既往第2位だと考えている。当然、銀橋上流の浸水被害軽減対策として、既往第2位だけで十分だとは思っていない。長期的な計画では既往最大洪水に対応していくことになっており、既往第2位はそのためのステップの1つだ。また、余野川ダムには猪名川下流域の水位低下効果があるが（審議資料 1-3 P16）、この効果があるから余野川ダムを優先して実施すべきだとは考えていない（河川管理者）。
- ・前期委員会で意見交換をしてきた結果、「あらゆる降雨に対して破堤による壊滅的な被害を回避する」という治水の基本的な理念が、委員会と河川管理者の共通した考え方になった。ただし、河川管理者が例外的に狭窄部上流に関しては対象降雨を設定する必要があると仰ったことを受けて、狭窄部上流の対象降雨について委員会と河川管理者で議論をしてきた。

委員会は、実現可能性を考えて、対象降雨は実績最大降雨にすべきだと意見を述べた。これまでの整備計画では、かなり大きな降雨を対象にしてきたため達成率がかなり低い。20～30年を対象とした整備計画では、対象降雨を大きくしても達成できなければ、むしろ被害が出てしまう。一方、河川管理者は、場所によって違うが、既往最大の引き伸ばしを対象に検討を進めてきた。もちろん、既往最大を越える降雨によって超過洪水が発生する可能性はあるが、その場合は、破堤による壊滅的な被害の回避のために河道対策や堤防補強をしていくべきだという考え方を委員会は示している。

河川整備計画の内容を考える際に、河川管理者にあらゆる降雨パターンを示してもらっても混乱するだけだ。あらゆるパターンを示してもらうことが本当に有益なのかどうかを考えないといけない。

←他の水系では、流域全体で目標とする降雨や洪水を決めている場合が多い。まず目標を決めて、その目標に向かってステップごとに進めていくべきだ（委員）。

## ②堤防強化について

- ・審議資料 1-3 P18 で堤防強化の実施場所が示されているが、優先順位や浸透・侵食に対する危険度が分かるようにしてほしい。

←堤防天端一余裕高で堤防の安全性を評価した。緊急堤防補強区間5kmの中で安全性が確保されていない箇所を整備を実施する。残る区間についても詳細点検に着手しており、安全性が確保されていない箇所では緊急補強区間に引き続き整備を実施していく。工事期間は約10年と考えている（河川管理者）。

- ・現在、整備が実施されている無堤部の築堤は、どれくらいの期間で終了する予定なのか。  
←絹延橋の架け替えを含めた一連区間の築堤は、平成20年度に完成を目標にしている。上流まで含めた直轄区間の整備完了は平成22年頃になるのではないかと考えている

(河川管理者)。

- ・無堤部の築堤、猪名川下流の河道掘削堤、狭窄部開削が完了するには、どれくらいの期間が必要なのか。

←現時点では詳細なスケジュールは決まっていない。今後、大阪府や兵庫県と調整していくが、今回の河川整備計画（20～30年）でやっていきたいと考えている（河川管理者）。

- ・河道掘削や堤防補強は直轄区間のみ。権限の問題は理解できるが、大阪府や兵庫県との調整は急いでほしい。また、府や県とは環境についても協議していくのか。府や県の河道整備の状況も示してほしい。

←神崎川等の整備状況も示しながら、委員会のご意見を頂きたい（河川管理者）。

- ・余野川ダムの残事業費 290 億円よりも河道掘削案 160 億円の方が経済的だということだが、河道掘削効果の発現時期が示せなければ、効果発現時期がはっきりしている余野川ダムとの比較はできないのではないかと。

←銀橋上流対策として、一庫ダム・余野川ダムによる対策案と銀橋開削・猪名川下流の河道整備による対策案を検討した結果、効果面、全体コスト面から後者が有利であると考えている。前者は約 1080 億円、後者は約 260 億円であり、コスト面では圧倒的に違っている。効果の発現時期についても、後者の対策の方が有利だと考えている。具体的なスケジュールはなるべく早く示したい（河川管理者）。

### ③環境について

- ・審議資料 1-3 P14 に記載されている水陸移行帯をどこで確保するのか。それが可能なのか。水陸移行帯と堤防強化との関係はどうなるのか。干潟の保全とはどういう内容なのか。人工干潟を作るのか、それとも、現在の干潟を保全するのか。モニタリングの中身はどういうものなのか。

←水陸移行帯の代表断面を審議資料 1-3 P15 に示している。堤防の幅がある箇所では水際をカットして水陸移行帯をつくっていく。干潟に関しては、人口干潟をつくることは考えていない。現在ある干潟は掘削しないという考え方だ。モニタリングに関しては、整備実施箇所では工事前と工事後で遷移を調査する。掘削箇所が判明し、着手する段階で、モニタリングの内容を検討して決定する（河川管理者）。

- ・河道掘削を実施していく中で、水陸移行帯をうまくつくっていくのか。幅のある河川であればよいが、猪名川は都市河川だ。堤外地の中で緩傾斜してもうまくいかない気がする。中州の活用を考えた方がよいかもしれない。
- ・掘削場所としてどこを選択するかが大きな問題だ。河川管理者は中州を中心に掘削する考えだが、猪名川には高水敷の公園が多い。中州だけではなくて、高水敷を含めて考えないといけない。樹林が繁茂している箇所は冠水する程度まで掘削すればよいのではないかと。

- ・治水面の効果がある河道掘削と河川環境のための河道掘削は違ってくるだろう。そのスタンスが明らかではない。場所によって、治水優先、環境優先の場所がある（ゾーニングの考え方）。中州では、平常時水位から飛び出している部分だけをカットする図が示されているが、環境保全にとってはあまり意味がないと思う。どのようにして治水と環境保全を両立させていくかを明確にしていく必要がある。
- ・武庫川下流では真っ平らに掘削しているが、あのやり方でよい。やがて小さな蛇行ができ、自然の川になる。人工的にワンドをつくっているが、造園的な手法でうまくいっていない。自然の川にやり直してもらう方がよいかもしい。隠し護岸という考え方もある。造園的にならないようにしていくべきだ。
- ・河道掘削は、まず治水を優先して決めてほしい。その次に環境面から考えた河道掘削を検討すべきだ。
- ・河道掘削については、猪名川自然環境委員会等でも議論をしていると思う。どういう議論になっているのか、資料を提供して頂きたい。
- ・河道掘削の調査検討結果については、これまでと同様に、整備内容シートとしてまとめるので、委員会のご意見を伺いたい（河川管理者）。
- ・河川管理者は河川敷公園を減らしていく方向性を打ち出しているが、公式試合ができるような立派な河川敷公園は諦めてもらうという方向性をしっかり出してほしい。そうであれば、河道掘削と環境保全は両立しない。

### 3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者5名からの発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・猪名川は、高水敷の利用率が高い。河道掘削は河川敷利用の縮小とセットで考えるべきだ。猪名川部会の継続委員は2名。今回の部会の審議事項はこれまでの部会やWGで検討したことだ。新規委員にこれまでの審議内容をよく把握して頂けるように対策を考えてほしい。
- ・前半の審議がうまくいっていない印象を受けた。河川管理者は審議事項を絞って委員会に示すべき。余野川ダムの地元住民も河川管理者と意見交換をしているが同じような感じだ。河川管理者には的確に答えて頂きたい。河川整備計画の目標をまず定めて、整備の優先順位を決めて、審議をしてほしい。余野川ダムの地元は、ダム中止の際には1000億円の補償を考えている。銀橋上流の対策を優先するのではなく、猪名川全体を考えて頂きたい。河川管理者は地元のことも考えて発言してほしい。委員会には地元を是非見て頂きたい。また、軍行橋以下でかなりの河川改修をしないといけないという河川管理者の説明を受けた。私は、この整備によって河川環境に多大な影響が出ると思う。ダムサイト周辺の環境への被害と比べると河道掘削の方が小さいという河川管理者の説明も受けたが、数ヶ月後には「そうではない」と訂正された。河川管理者は信用できない。
- ・河川管理者は自信を持って説明してほしい。多田地区の浸水被害についてはかなりの時

間をかけて検討してきた。余野川ダムは多田地区の浸水被害軽減には効果がないと判明してからも、何とか余野川ダムで対応できないかと考えてきた経緯をわかるように説明して頂きたい。また、部会長にもわかりやすい発言をして頂きたい。

- 地元の補償等には税金がつぎ込まれる。また、受益者は国民であるという点を真剣に考えてほしい。地方自治体との連携も取れていない。河川管理者や委員会は地元住民に向けた審議をおねがいしたい。
- 新規委員には資料を読んだ上で議論をして頂きたい。引き伸ばし率と被害金額を示した資料はすでに示されている。どんな雨が来ても、越水しても破堤しない堤防補強とソフト面での対応をしていこうという議論もしてきた。過去の審議をきちんと引き継いだ議論をして欲しい。河川管理者もこれまでの説明を理解した上で受け答えをしてほしい。

以上